

## 令和3年度 第1回新発田市総合教育会議（会議録）

- 1 開催日時 令和3年12月20日（月）  
開会：午後3時00分 閉会：午後5時05分
- 2 開催場所 新発田市立七葉中学校 3階図書室
- 3 協議事項
  - (1) 新発田市におけるICT教育の取組みについて
  - (2) 七葉中学校のICT教育の取組みについて
- 4 出席者

市長	二階堂 馨
教育長	工藤 ひとし
教育委員（教育長職務代理者）	関川 直
教育委員	桑原 ヒサ子
教育委員	笠原 恭子
教育委員	村川 孝子
- 5 会議に出席した事務局職員等
  - 市長部局

みらい創造課長	坂上 新一
みらい創造課課長補佐	鳥海 貴宣
みらい創造課主任	鈴木 博之
  - 教育委員会事務局

教育次長	鶴巻 勝則
教育総務課長	平田 和彦
教育企画課長	橋本 隆志
学校教育課長	小野沢 謙一
学校教育課教育センター長	森谷 優子
学校教育課教育センター主任副参事	廣澤 正文
教育総務課課長補佐	井浦 寿典
教育総務課教育総務係長	杉林 直樹
教育総務課主事	渡邊 悠斗
教育総務課主事	杉崎 由桂
七葉中学校校長	野澤 一吉
七葉中学校教頭	今野 由紀子
七葉中学校教諭	市橋 佑太
- 6 協議・報告事項の経過  
別紙のとおり

## 1 開会

○坂上みらい創造課長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和3年度第1回新発田市総合教育会議を開会いたします。はじめに新発田市長より御挨拶申し上げます。

## 2 あいさつ

○二階堂市長

皆さん御苦労さまでございます。今年もあと僅かとなり何かとお忙しい中、御参集いただきありがとうございます。師走に入って、びっくりしましたけども東豊小学校、御免町小学校新型コロナウイルスによるクラスターの発生ということで、大変心配をしましたが、先程の工藤教育長から話を聞き、ほぼ終息に向かっているということでもあります。御免町小学校は今日から学校が再開し、東豊小学校は22日まで休校ということで、ほぼ大丈夫だろうということで胸を撫でおろしているところでもあります。まだ油断ができませんが子どもたちは、無症状感染者が多いというような話を聞いています。無症状ということは、それだけ感染を広げる要因でもあるわけですので油断はできません。しっかりと教育に携わる皆さん方に目を光らせていただきたいと思います。今日、七葉中学校のICTの教育を見させていただきました。元々私はアナログでありますので、時代が違うのだなと改めてその時代感を感じたところです。ただ自分が思い描いていたような授業風景ではありませんでした。双方向でしっかりと授業ができていると感じました。ただ、どうしても双方向といえども、表情のやりとりで先生と、それから生徒の間でのやりとりで少し心配かなと気がしないでもありません。なぜならば、やはりものを伝えるというのは言葉ではなくて、表情だというふうに言われています。メラビアンの法則というのがあり、伝える力の7%は言語、あとの38%は言語の内容、後の55%は表情だというふうに言われています。例えば、母親が赤ちゃんにアップっていう。赤ちゃんはその言葉を知らないけれども、母親の表情を見て、赤ちゃんが反応を示し、表情がデジタルになったときにどうなのかなということがありましたけど、今日見ている限りではそんな心配はないなと改めて思っていました。ただ、表情で言えば、マスク越しという、ここがどうしてもコロナ禍でありますので避けて通れないと思います。先般、非常に新聞記事で目を引いたのは、不登校は19万6000人を超えているということだそうであり、自殺者も過去最高をマークしたということでもあります。そういう教育現場の悲鳴に近いような記事が載っておりました。不登校というのは、ある意味いろんな理由があるでしょうけれども、例えば、いじめに対する自分の身を守る一つの逃げ道でもあるわけであります。その後転じて自殺者も多いということになれば、家庭すらも何か逃げ道がなくなった子どもの悲鳴を聞くような、そんな気がしないでもありません。先生方の面識会でも私は言いますが、子どもたちの命を守ることが、教員の第一義です。第二義的には教育というのがありますけれど、子どもたちの命を守るというのが一番の先生方の任務ですということを言っているわけでもあります。マスク越しとは言え、子どもたちのサイン、シグナルをしっかりと受けとめていただきたいと思います。「君看よ双眼の色語らざらば憂いなきに似たり。」とっております。やはり例え眼だといっても、十分子供たちは、先生に何かサインを送っているということをしっかりと受けとめていただきたいと思います。今日は皆様方からいろんな御意見をいただいて、素晴らしい学校の現場を見させていただきました。工藤教育長からは、

野澤校長先生のリーダーシップがよろしく、市内ではこの七葉中学校が一番のICT教育の先進学校だと聞いているところであります。頼もしい校長先生がまた来てくれてありがたいと思っております。今日は素晴らしい会議をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 3 協議事項

#### ○事務局（坂上みらい創造課長）

ありがとうございます。それでは、これより本日の協議事項に入らせていただきます。本日のテーマはICT教育の取組についてであります。新発田市総合教育会議設置要綱第2条の規定により当会議の議長は市長が務めることとなっておりますので進行については二階堂市長よりお願いいたします。

#### ○二階堂市長

それでは協議に入ります。今年度より、タブレット端末が児童、生徒一人一人に支給をされ、授業で使用しておりこの9月から家庭へのタブレット端末持ち帰り、家庭学習も始まっております。国のGIGAスクール構想に基づいて、当市でもICTを活用した学び方が試みられております。このことについて、本日協議をいたします。それでははじめに、①ということで、新発田市におけるICT教育の取組について、②として、七葉中学校のICT教育の取組についてそれぞれ説明を受け、その後、意見交換を行わせていただきます。それでは事務局からお願いいたします。

#### ○森谷教育センター長

教育センターの森谷です。よろしくお願いいたします。新しい時代の教育に不可欠な環境として、多くの期待とともにGIGAスクール構想がはじまりました。本日は、市内小中学校のICT機器を活用した教育の取り組みについて御紹介します。

はじめに、1人1台端末設置状況についてお話しします。児童・生徒は全員にタブレット端末が貸与されています。教職員については、学級数プラスアルファが配当されており、7割から8割の貸与率となっています。今後、生徒数の減少が見込まれることから、今年度末に卒業生分を、教職員再配当し教職員分についても全員貸与になる見込みです。

通信ネットワークの整備状況です。通常の教室、体育館については、昨年度3月に全ての学校の工事が完了しました。特別支援学級教室については、年内に工事の完了を目指しています。特別教室については、年度内の3月までに完了する予定です。なお、教務室には、これまで使用していた既存のネットワークがあり、今回のGIGAのネットワークとは別のものを使用しているため、教務室では、タブレットが使用できない状況でした。しかしながら、これについても、必要に応じて切り替えができるよう準備を進めており、年度内に完了する予定です。他の教室についても、学校の要望を受けて対応していきます。

これは、今、休校中の東豊小学校が、Google Meet を使って、朝の会をしている様子です。全体的に活用するアプリケーションソフトウェアとしては、Google Class Room for Education を使用しています。このような算数のオンライン授業を行っています。他にも、今年度、来年度、無料で使用できるロイロノートスクールなど複数のツールを、場面に合わせて活用しています。これは体育のダンスの授業の様子です。東豊小学校は休校中ですが、オンラインを使って充実した教育活動ができています。また、経済産業省のEdTech事業を活用し、令和3年8月から令和4年3月までの無料トライアルとして、AIドリルキュビナを導入しました。先ほどの特別支援学級の授業参観でも活用が見られましたが、これにより小1から中3までの全てのタブレット端末、国語、算数・

数学、社会、理科、英語の5教科9年分が学習できるようになりました。どの学年の子供でも、他学年の学び直しや予習ができるうえ、採点も即座にAIが行うため、学習のメタ認知が進み、学習効果を上げています。社会の変化によって、教育課題が複雑化する状況において、個別最適な学びを保障していく必要性が高まっています。国は、タブレット端末でのAIドリルの活用を推奨しており、県内では13市町村が導入済みです。

教職員研修についてです。タブレット端末導入前より代表教員を集めて、あるいは各小中学校での全員研修など、各種研修を実施しています。新発田市は、新潟ラインズとGIGAスクールサポーター契約を結び、テクニカルサポートや行政支援、学校支援を委託しています。年間を通じて新潟ラインズのICT支援員が学校の要望に応じ、授業支援、教職員研修などを行っています。加えて、12月初旬、Googleドライブの新発田市共有ホルダーに新発田市GIGAスクールサポートサイトを開設いたしました。通知や操作方法、Q&A、おすすめの実践などを掲載し、いつでも市内の教職員が閲覧できるようにしています。

危機管理については、タブレット端末導入当初より有害情報のフィルタリングをはじめ、子供用、大人用、それぞれの端末において、あらかじめ想定できることには対処できるようなシステムを構築しています。例えば、新潟ラインズでなければ、アプリを勝手に入れることはできません。また、子どもだけでチャットやメールはできないようになっていきますし、小学生は、アカウントパスワードの管理を保護者にもお願いしています。基本的な肖像権、著作権等の研修も、各小・中学校で発達段階や適切な時期を考慮し、実施をお願いしています。時折、先生方から学習に関係のないYouTubeを見るかもしれないから、子どもたちがYouTubeを見られないようにしてほしいという要望があります。しかし、YouTubeには優れた教材がたくさんあります。先生方には何でもかんでも禁止をするのではなく、何のためにタブレットを貸してもらっているのかを子どもに考えさせてほしいとお話しています。トラブルが起こったときに、その事案を通して子どもたちに振り返らせ、子供たちの自主性、主体性を育むような指導支援をお願いしています。

タブレット端末の家庭への持ち帰り状況です。中学校では6割の学校が毎日持ち帰っており、必要な文房具として活用していることがわかります。県の調査では、持ち帰りが思うように進んでいない現状がありますが、当市では、AIドリルの導入により、特に中学校で成果が出ています。またコロナ禍の休校への対応や年々増加している多様な学び方を求める児童・生徒への学習保障として、さわやかルームに通室されている児童・生徒の保護者からも肯定的な評価をいただいております。目下の課題は次年度以降このキュビナが有料になることです。半年のトライアルでは、現場での検証に差があるようです。

家庭のWi-Fi設置状況です。今年度8月の調査では、全5,892世帯中、284世帯で、Wi-Fiの設置がありませんでしたが、12月の調査では、Wi-Fiの設置がない世帯は47世帯に減少しています。Wi-Fiの設置がない家庭では、市教育委員会より、ルーターを貸与しており、当初233台の申し込みがありました。しかし現在は、新たに自分でWi-Fiの設置をしたこと等により115台のルーターが返却されています。家庭のWi-Fi設置状況は、99.2%となっています。

ICTを活用した教育の成果についてです。一つ目は、子供の学習効果の向上です。タブレット端末を導入したことにより、グループや全体での意見交流がやりやすくなりました。瞬時に仲間の意見を知ることができたり、手を挙げて、自分の意見を言うよりも、意見が言いやすくなったりして、学習へ参加しやすくなっています。結果、子どもたちが協働的な学びが促進され、学習効果が向上しています。二つ目は、教師の授業改善に繋がっているということです。ICT機器が導入されたことで、授業の枠組みが変わりました。例えば、これまで振り返りにかけていた時間や方法が、ICT機器の使用で短縮されたり、既習事項や学び方の蓄積が容易になったりしています。結果、ICT機器の導入が契機となり、教師の本質に迫る授業改善が進んでいます。

次に課題についてです。一つ目は、学力向上の実効性です。長年、学校では知識や技能の習得を目指した一斉授業をしていましたが、時代とともに子供たちに身に付けさせたい力は変わってきました。学校で学ぶ価値、仲間と学ぶ価値を捉え直し、思考力、判断力、表現力を育成することができるよう、子どもたち主体の授業へと転換を図っていく必要があります。二つ目は、環境整備、活用促進です。既に朝の健康観察や生徒会活動、部活動などでも活用が広がっています。授業だけでなく、教育活動全体でICT機器を活用していくために、環境整備をさらに進めていく予定です。GIGA スクール構想は、端末を使って何をどのように学ぶのが問われる次の局面に進んでいます。今後も、市教育委員会は、小中学校に寄り添った指導支援を続けてまいります。

#### ○二階堂市長

七葉中学校側から説明をお願いいたします。

#### ○野澤七葉中学校長

中学校の校長野澤といいます。先ほど授業を見ていただきましてありがとうございます。これから、私の方から、当校のICTに関わる準備と私自身の構えというのを御紹介させていただきます。まず平成26年度文部科学省から次のような、10のICTの場面というのが提案されました。その当時、私の勤めていた学校では、これは困難であり、この場面を実現するには時間がかかると思っていました。私は前任校でアメリカに行く機会を得ました。それが平成28年度です。そのときに、小学校、中学校、高校の授業を見させてもらい、これは小学校の授業場面ですが、机が共同的にセッティングされ、黒板はなくICTの電子黒板でした。これが中学校です。中学校での一斉授業でしたが、黒板ではなくて、もう電子黒板を使っただけの授業がなされていました。これは、高校です。実際の机の上に、コンピュータがあって、教員のコンピュータで相互に通信している授業を見させてもらいました。私が当校に令和元年度に着任させてもらったときに、当校の市橋が、昨年12月に何とか1人1台のタブレット端末で授業をしたいという思いがありました。当時、当校にはタブレット端末が2台しか配置されていなかったもので、外部から借り昨年12月の市研修会の際に授業公開をしました。市内の学校では、ICT授業を取組んでいたのは当校が一番早かったと思っています。これは、当時のICT担当教諭の意気込みでもありました。これには前段階があって、その前年の令和元年に私を含めて市橋と一緒に赴任した時、このような構想を練っておりました。当校は空き教室が多くあるので、ICT教室の設置に向けて、一つの学級に有線を引き、班に一つのiPadを使い電子黒板、テレビを活用して授業の提案をして、令和元年の3学期から立ち上げておりました。ICTの授業への取組は、2年前からこのような準備をさせていただいておりました。そして、新発田市のICT教育について、令和2年度から導入するにあたり教育委員会の皆様方から説明を受けました。当校が主体的に新発田市のICT教育を推進するに当たり、幾度も職員会議を重ね、予算などの問題もありましたが、昨年9月の職員会議で提案しました。それと同時に新型コロナウイルス感染症の拡大で国のGIGAスクール構想が前倒しとなったことで、1人1台のタブレット端末の支給が実現され、当校もその波に乗らせてもらって、事前準備されたものが実現するようになりました。今年度、私は当校の職員に言っております。9月から本格的にICT教育がはじまりましたが、2学期は、タブレット端末で自分の考えを持つ、クラスで共有する、3学期からは、過去の知識理解を活用できる場面で使うとし、学びに向かうICT機器の使用を少しずつ前に進めていこうということで取り組みを始めている最中であり、このような素地があって、今日の授業の発表があったということをお紹介させていただきました。それでは、七葉中学校のICT教育の取組について市橋から説明させていただきます。

## ○市橋佑太七葉中学校教諭

続きまして私の方から七葉中学校のICT教育の取り組みについてお話をさせていただきます。

はじめに情報モラル指導についてです。1人1台タブレットを活用するにあたり私の方で全校に対して情報モラルの指導を行いました。七葉中学校では、これからの時代タブレットは教科書やノートと同じような筆記用具的なものになっているという考えから、最低限の約束を私達教職員の方から考え、生徒に周知いたしました。その中で生徒が使用している様子を見ていくと、休み時間中のタブレットの使い方で見られる様子が見られましたので、先生がいる状況でのみ、休み時間でタブレットを使うことができるように再度、全校へ周知をいたしました。ただ、生徒の使い方をどんどん制限していくというよりも、全員が気持ちよく使用できるように、生徒の情報モラルを高めていく場面を今後も作っていかれたらと思っております。

続いて、学校全体での取り組みについてです。一つ目は、朝の健康観察です。ロイロノートというアプリを用いて、朝学活において、体温を入力する時間を設けています。今までは毎日提出しているデイリーライブというノートに体温を記入して、担任がチェックするというものでした。それですと私達の空き時間で見ることになるので、どうしても午前の遅い時間になったり、又は午前授業が詰まっていたりすると午後になったりしてしまうという状況がありましたが、ロイロノートにすることで、その朝学活のうちに生徒の健康状態を把握できるようになりました。

続いて家庭学習です。主に1・2年生において、キュビナというアプリを用いた家庭学習へと変更しました。これを導入した経緯というものは、タブレットを家庭に持ち帰る意味がないと何のために子供たちは持ち帰っているのかという懸念があったからです。家庭学習にすることで、持ち帰り必然性というものが生徒に生まれました。七葉中学校での取り組み方としては、1週間で5教科の学習を、それぞれタブレットで20分以上行うということにしました。当校では、学年×10分という学習時間の目標がありますが、眼の健康状態とか、そういうことも考えて、そのうちの20分をタブレットでの学習という位置づけにしてあります。三つ目は、各種アンケートをGoogle Homeで行うようにしています。集計を自動にすることもできますし、提出したかどうかの確認も容易になりました。四つ目は、私達教職員が使用する日報や職員会議の資料のデジタル化です。普段、毎日のように印刷していたものを、デジタル化することによって印刷しなくても共有のドライブに保存してタブレットで確認できるようになりました。もちろん、必要があれば、印刷をして、それぞれの先生方の使い方に応じて、自由に印刷またはタブレットで見ることが出来ます。

続きまして、ロイロノートを活用した取り組みです。このアプリは、先程説明させていただいた体温だけでなく、授業における生徒の様々な考えの比較や共有、職員がタブレットの画面を生徒全員へリアルタイムに配信することが可能です。今までは黒板に出て、生徒がノートに書いた自分の考えを黒板に書く必要がありましたが、これはノートを写真に撮って、それを教師に提出することで、様々な考えを共有することができ、時間短縮にもつながっています。何人かの生徒の考えを一つの画面に三つ表示させどんな考えができるのかを比較検討することができます。事業の振り返りやレポートの提出ということで、私達が評価する資料の蓄積だったり、紙で集めたりすると紛失の心配とかも出てきますがそういった心配もなく、また提出した評価を生徒に返却することも可能になっています。生徒からわからなかった疑問点を私がコメントをして生徒に、返却することも可能です。

続きまして、キュビナを活用した取り組みです。一つ目は先程も説明した家庭学習となります。取り組み方は先ほど説明させていただきました。

このキュビナは、生徒の間違い方に応じてAIが自動的にその生徒に合った問題を出題してくれます。下学年の問題を出題することもありますし、間違えた問題の類似問題が出題されることもあります。生徒がどのように間違えたのかを、教師用の画面で確認することもできます。

続いて、授業での復習問題です。授業の導入やまとめにおいて、主に英語、数学、社会科で取り組んでいます。多くの問題から、生徒の実態に合った問題を選択して、ワークブックという形で配信することが可能です。特別支援在籍生徒への学習です。その生徒に合った問題のレベル、時間をあらかじめ設定することができます。これらのことから、キュビナを使うことで、個別最適な学習が可能になっています。また、七葉中学校はこのキュビナを活用して解いた問題数が日本一にもなっています。

次に、Google Class Room を活用した取り組みです。主に課題や資料の配信、提出ができます。提出物の点検やそのフィードバックが容易にできます。学級で情報共有することもできます。私が思うに、このアプリを使っているのは、当校生徒のコミュニケーションです。主に連絡が中心となりますが、直接会うことが難しい場合でもコミュニケーションを取ることができます。もちろん他の生徒にその内容を見られる心配はありません。

次に多くの教科で実践している写真や動画を活用した取り組みです。お互いのプレーを撮影し合うなどし、自分の良いところや改善点を見ることができます。また、部活動でも活用することができます。英語科や国語科では、スピーチの様子を動画で撮影し合っています。また、今はワークや資料などにQRコードが付いており、それをタブレットで読み取ることで問題を解いたり、解説動画を見ることができます。様々な学習の支援として活用しています。

続いて、総合学習での取り組みです。私が所属している2年生では10月に職場体験を行いました。職場体験におけるまとめ学習、発表会において、このiPadに入っているKeynoteというアプリを用いて、発表会の資料を作成しました。発表会のときでなく、写真のように、実際に印刷して教室の廊下に掲示することも可能となっています。

続いてデジタル教科書の活用についてです。今年度数学では、タブレットにデジタル教科書をインストールさせていただきました。今日の授業では図形の単元において、点が動く様子を見ていただきました。今日、授業で使っていたものがデジタル教科書ではなくて、授業ゼブラというアプリを用いています。このように実際に動かすことで、課題を解決するきっかけと、また手助けとなっています。

最後に今後の課題です。一つ目は情報モラル教育の推進です。GIGAスクール構想が一気に進むことで、それと並行して、生徒への情報モラルの指導を行っていかなくてはならないと考えています。中高生のSNS等を利用した誹謗中傷などがニュースになっています。折角のものであっても、間違った方向で使ったら元も子もありません。

先ほど申し上げたように、禁止することではなくて、いかにみんなが気持ちよく使えるかを考えたり、自分自身で善悪の判断がしっかりできたりするようにこれからも指導を行っていく必要があると考えています。二つ目は学習アプリの利用料金です。今年度は、導入初年度ということで、無料で試用させていただいておりますが、来年度からは、利用料金がかかってくるものもあります。私達はもう1年で先生方が試行錯誤しながら活用していますが、来年度使えないとなると、どのように今後活用していったらいいのかというのと考えています。学校の予算にも限りがありますし、保護者への負担ということを考えるとなかなか難しいのではないかなというのが現状です。続いて、Wi-Fi環境の整備です。今現在、特別支援教室にWi-Fiが整備されていません。やはり学校のどこにいてもWi-Fiにつながることができれば、GIGAスクール構想をさらに前進させることにつながると思います。三つ目に、ICTを活用した授業実践の共有と情報提供です。幸い、新発田市のICTの情報共有サイトが出来上がり、そこで今後、他校の実践情報を見ることができるのは、とてもありがたいと思っています。ICTに慣れている先生、慣れていない先生はもちろん、どのようなすれば効果的にICTを活用して、生徒にとってわかりやすい授業になるかを調べるきっかけになるものだと思います。ICTを使うことが目的ではなくて、生徒にとってわかりや

すい授業になるための手段になるように、または家庭学習のサポートになったりするように、私達も多く情報を得たり、発信したりすることが今後さらに必要になると考えています。以上で七葉中学校の取り組みがおります。

#### ○二階堂市長

それでは、意見交換に移ります。事務局、学校から説明がありましたけれども、それぞれ御質問や御意見があれば受けたいと思います。話のきっかけとして私の方からは、大変ICT教育の良い部分だけを受けました。もちろんそれだけの効果がきつとあるのだろうと思います。けれども、よくよく考えてみると、何かアプリ等で、来年の予算がかかるので陳情も兼ねて、今日このICTのテーマを設けたのかなとそう感じています。実は、一昨年に市長査定のときに、先程タブレットを各学校に2台配置しているという話があって、教育委員会の方からもう少し増やして欲しいという予算要求があったのを覚えています。そのときのあまり利用頻度といいましょうか、利用率が非常に高い状況ではなかったものですから、まずはその子どもたちにタブレットを与えるより先生方そのもののスキルアップをやるべきではないのかというような議論をした記憶があります。結局、そういうことで教育委員会の方は、2台のタブレットの利用率があまりよくないという現状から1年予算を送ったということがありましたが、今日、いろいろ見させていただきましてけれども、全て若い先生方であった、定年間近の先生方は、当然、私ほどではないにしても、ほぼアナログに近い先生方もきつといると思います。でも、そういう先生方と若い先生方とどう詰めていくのか、急に授業でタブレットを使うということをどのように進めてこられたのか。どうぞ。

#### ○森谷教育センター長

学校訪問へまいりますと、50代でも積極的にICTを活用されている職員がいらっしゃいます。先生方が空いている時間を利用し、ICTに堪能な職員にやり方を聞いたり、3、4人で集まってミニ研修のようなことをやったりしている学校もあります。50代だからICT教育ができないとは言いきれないと考えております。市長がおっしゃるように年齢を問わずICT教育が苦手な職員もいます。そこでICT授業を苦手とする職員を対象とする研修を1月12日に予定しているところであります。

#### ○野澤七葉中学校長

七葉中学校の一つの例です。当校の理科教員は私と同じ59歳ですが、理科室のWi-Fi機能を充実させ、毎時間、授業でICT機器のワイプ機能を利用し授業を行っています。また、40代の英語教員も最初ICT機器を遠ざけていましたが、英語教員も一生懸命ロイロノートを使うなどタブレットを使用した授業をしています。年配者でも、将来の教育を見据え、タブレットを活用していくという意識が高まっていると考えています。

#### ○二階堂市長

それでは、村川教育委員どうぞ

#### ○村川教育委員

今お話をお聞きして、学校体制でやっていくことの良い例だと思いました。中学校で校内での研修は、それぞれ教科が違うので難しさがあると思っていました。それが、このICTというツールを使って、同じスタートラインに立ち、職員同士が研修を進めてこられたこと、研修の効果を日常的な健康観察などでICT機器を使用していること、そして、職員の年齢に関係なくタブレット機



器を活用していること、これらを校長先生のリーダーシップで取り組んだ良い例と感じました。この例を新発田市の小中学校全体に広げたいのではないかと思います。また、情報共有サイトをよく活用しているということですが、先生方とともに組織でやっていく中で工夫していることはありますか。

#### ○野澤七葉中学校長

当校の教頭と市橋が中心となって、ICT教育に関する校内研修会を実施しました。その研修の中で非常に良かったと感じたことが、その各先生方がご自分の授業でタブレットを使う指導案を作る研修を行いました。そのときに、さすがに私はちょっと苦手だという先生もいましたが、グループ핑して、こういう私はこのように使いますというような発表し合う研修会は、かなり成果があったと感じました。その研修をきっかけに、今年度、市の皆様方が教育計画訪問で年2回来られた時も、全ての授業でタブレット使う授業を実施したので、研修はかなりの効果あったと思います。みんなで一緒に同じ目標をもって研修会で実施するのは大切であると考えています。

#### ○二階堂市長

工藤教育長に聞きます。今は、AIドリルは無料のようですが、アプリもいろんなものがあります。現在のところ、新発田市内の小・中学校ではキュビナを使用しています。今後、有料となると各小・中学校でAIドリルなどのアプリは、それぞれの学校で考え方の違いがでるように思います。各小・中学校で使用するアプリが違うことは良いのでしょうか。新発田の教育として、統一は取れるのでしょうか。

#### ○工藤教育長

市長さんの御心配の通りです。AIドリルなどのアプリはそれぞれ学校配当予算の中で、それぞれの学校で使用していくこととなりますが、予算にも限界があるわけであります。教育委員会では、今後もAIドリルなどのアプリは、小、中学校統一のものを使用し、現在活用しているロイロノートとキュビナを基本に、アプリ無料使用期間にしっかりと基本を身に付け先生方に動いていただいているところです。AIドリル等のアプリ教材経費については、学校の配当予算の中で使える部分があります。また、学校配当予算を超える部分については、保護者負担の話し合いや教育委員会の予算の中での配当を検討していく必要があると私自身思っています。

#### ○二階堂市長

他に教育委員の皆様方からございますか。桑原教育委員、どうぞ。

#### ○桑原教育委員

今日は教育の取り組みがメインですが、ただいまの報告で重要と思われるのは、学校内のペーパーレス化をすごく進めていることです。アンケートを実施したり、朝の健康観察で使用したり、あるいは職員会議で会議資料のデジタル化にタブレットをかつようされているとのことでした。教員の多忙化が言われて久しいですが、どうやったら多忙化を防げるかを考えるときに、このようなタブレット活用法は、極めて重要であると思いました。

次に授業のことです。授業中ICT教育の活用と言いますと、個人学習に使うこと、グループ学習に使うこと、教室全体の中で活用していくことが挙げられると思います。

特別支援教室での授業で、理科の問題をキュビナで実施していました。キュビナは、宿題として使われるという説明があったと思いますので、その方向で活用するのはいいと感じました。キュビ

ナを授業の中で使うことはあまり感心しません。生徒が復習で活用する場合は○が次々に出ると自分は理解できたと自信に繋がります。けれども、×が出た場合、なぜ間違ったのかという説明がないと理解は深まらないと思います。数学の授業で、C点を移動させて面積を変えずに四角形を三角形にする問題に取り組んでいました。実際に画面で点を動かせるのは、とても興味を湧かせるもので、みんな楽しくやっていたと思います。実際に点を動かして、表示させる面積の数字を見ると正解を見つけられるわけです。問題だったと思うのは、生徒が、点を動かして正解になるところを探すことに夢中になり、先生がどうしてもそこになるかの問いかけに、答えるのが難しかったことです。二本の補助線を画面に出して、二つの三角形に分けて、考える方向へ先生が導いておられました。むしろ、2本の補助線を早い段階で出し、C点が補助線上を移動しても全体が四角形であろうが三角形になる瞬間があろうが、なぜ面積が同じなのか意識させることが大切であったように思います。生徒が、点を動かす面白さに気を取られ二つの三角形に分けるという発想が出にくかった印象がありました。

グループ学習をしていたのが社会科でした。これはタブレットを使って、市長への提案を書き込みながらグループの中で共有できるのは、とても便利です。ただ、タブレットという道具を使うことと、それぞれのグループが積極的に議論をしているかはまた別の話です。

グループを見ていますと、とても積極的に議論をして、タブレットに書き込んでいるグループと、沈黙になってしまったり、グループの中の生徒が見る画面がバラバラだったりというグループもありました。つまり、タブレットを使う以前に、グループ討議の効果的な仕方をマスターしているかが大切で、そうであってはじめて、タブレットを道具として機能が発揮されると思います。

体育については、自分でダンスする姿は絶対に見られませんので、それを映像にとって、後からゆっくり、どこを改善したらいいのかグループの中で議論していくのは非常に意味のあることだと思いました。

今日の授業では拝見しませんでした。調べ学習には、タブレットはとても便利だと思います。はきっと上手に使われていると思います。先進地視察の新潟市の小学校で、天気図を使って天気を予測する授業が行われていましたが、天気図が動くのです。ICT教育が導入された恩恵だと思います。紙で見えるのではなくて、資料そのものが動く、そこから推測して意見を述べたり議論をした上で、結論を出させるというとてもスリリングな授業ができるようになったと思います。

#### ○二階堂市長

関川教育長職務代理者どうぞ。

#### ○関川教育長職務代理者

市長さんは、先生方のことを心配なさっております。私は、今年スマホデビューしました。今、スマホ教室というものがあります。スマホをうまくできるよう通うわけです。私くらいになりますと教室ではできたものがしばらくすると忘れてしまいます。しかし、学校の先生はいくら年を取ったとはいえ60歳を過ぎたぐらいです。絶対大丈夫だと思います。やはり、世代間ギャップを言わないで、やる気、やらせる気を起こさせ、どんどんタブレットを使っていくことがいちばんだと思います。だから、校長先生方が率先してタブレットに親しみ、管理職から率先してやるような体制を敷けば世代間ギャップは解消していくと思います。特に若い教師を講師にして研修を行えば、ICT教育が苦手な教師も幾らでも学べるわけです。このような研修の場を作る雰囲気を設定していくのが校長先生方であると感じます。また、学校側の要望を教育委員会が受け、どうお返ししていくかを考えていかなければならない。やはり、教育は金かかるというのが基本に戻るわけです。それともう一つ、桑原委員が御心配のタブレットを使って何をするか何を学ばせるのかということです。

その時間その時間でしっかりと教師がねらいを立ててやっついていかないと、なんとなくうまくいっているふうな錯覚を教師が起こしてしまうことがあると感じます。何をこの時間でどういう力を育てたいのか。授業で討議するとかは、タブレット見ながらもでき、タブレットを使わなくてもできる。討議するっていうそういう力ってというのは必要で、この先、生きていくうえでの力となるものと思います。そういうことを外しての技術的な伸びを喜んでいるようでは駄目だと私は思います。子供には課題を設定する力を育てるべきだと書いてある本がありました。課題を解決するっていうことで、満足しているような学校が多いかと思いますが、設定する力、そういう能力を育ててやることも必要と考えます。以上です。

#### ○二階堂市長

どうぞ、笠原教育委員

#### ○笠原教育委員

先程、森谷教育センター長から家庭の持ち帰り実施状況を説明してもらいました。学校によっては進んでいる学校、まだまだの学校がありました。小学校と中学校では、中学校は毎日持ち帰っていて、小学校は週1回が非常に多いという結果でありました。東豊小学校では、休校中はオンライン授業やっていると説明がありました。やはり、週1回だけの持ち帰りを実施している学校ですと、突然の休校の対応も家庭では東豊小学校のようなオンライン授業はできないのではと感じています。保護者の方からも、タブレットの持ち帰る回数があれば、家庭でも何かできたのではないかという話も聞いています。できるだけ小学校も早く毎日タブレットを持ち帰るような状況になればいいなと思いながらその話を聞いていました。週1回しか持ち帰っていない小学生が、中学1年生になったときに、いきなり毎日課題はタブレットで出るよと言われてたら、中1ギャップではないですけども子供たちはすぐになれるとは思いますが、しかし、小・中学校の連携というか、タブレット授業を小学校の授業でも、中学校のような授業ができるのかと思いました。また学校では、できるだけペーパーレス化を進めていますが、家庭でもお便りをどこまで保管していいとか、学級だよりが配信されてくるとかまたそこに動画と一緒に送られてくればとてもいいなと思います。先日、ネットの情報でいじめのアンケートについて出ていまして、その情報では、いじめのアンケートを各学校で筆記をさせ、アンケートの回答を保管して置くため、毎週毎月アンケートを実施しているため保管する量が膨大であり、回避するため電子アンケートという形でできないかと提案されました。また、いじめアンケートは学校ではなく、直接、教育委員会につなげる提案でありました。電子アンケートなどの方法で、子どもたちが直接、教育委員会へ送れるとなれば、新発田市の子供たちが、地域、教育委員会が守ってくれるというアピールにもなると感じます。そのような導入もいいと感じます。それで、小学校、中学校の先生方のタブレット授業の連携はどのようになっていますか。

#### ○森谷教育センター長

小学校、中学校の連携と言いますか、小学校、中学校一緒にICT教育の研修を2年一緒にやっております。令和2年度、令和3年度の二年間の小学校も中学校もみんな一緒にその研修をして、その研修を受けた代表教員がそれぞれの学校へ持ち帰って、学校の教職員に研修していただいているような状況です。しかし、なかなか発達段階に応じて小学校や中学校と違うところが出てくるというのは感じております。それが今の課題ですので、また次年度、今のご意見参考にしまして、さらに進めていきたいと考えております。

○二階堂市長

他にありますか。

委員の皆さんからも御意見がないようでありますので、以上をもちまして会議を終えたいと思います。いずれにしましても、ICT教育が子供たちの未来を開くような教育になってほしいと思っています。私のような古い人間は、どうしても中学生というと雪が解ければ高校受験があるわけがあります。15の春を泣かせないというのが我々にとって親にとっては切実な願いでもあります。ぜひ教育に携わる皆様方に張っていただきたいと思います。今日は七葉中学校の皆さんに大変ご協力いただいて素晴らしいものを見させていただきましてありがとうございました。

#### 4 閉会

○坂上みらい創造課長

ありがとうございました。

活発な御意見、御発言は誠にありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和3年度第1回新発田市総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでございました。